

初めての JSiSE オンライン全国大会への道のり

小尻 智子*, 國宗 永佳**

Process toward the First Online Annual Conference of JSiSE

Tomoko KOJIRI*, Hisayoshi KUNIMUNE**

The annual conference of JSiSE was held online for the first time on September 2-4, 2020. Since the “place” was different than usual conference, the Committee faces various issues. One of them is that we had to make decisions while the physical constraints of location were gone. Another issue is how to establish the communication and share intentions between committee members. This paper looks back these issues and describes how we solved these problems.

キーワード：全国大会，オンライン，意思決定，意思疎通，情報共有，大会運営

1. はじめに

2020年、コロナが世界中に脅威を及ぼすようになった。それに伴い、感染を防止するために、対面で実施する大規模なイベントは中止もしくはオンラインでの実施に変更となった。2月から3月の春休みに実施される多くの学会のイベントもオンラインでの開催となった。本学会の全国大会も講演申し込みが開始された4月初旬から、実施方法について大会委員会や学会執行部と議論を重ねた。そして、2020年度の全国大会は、初めてオンラインで実施されることとなった。

本稿では初めてのオンライン大会を開催するなかで大会委員会が直面した困難さとそれらを解決していった過程を振り返る。

2. オンライン大会実施で直面した問題

オンライン大会の実施で感じた問題は大きく分けて二つある。一つ目は、場所という物理的な制約がなくなったなかで、企画に関する意思決定をしなければならなくなったということである。

通常、さまざまなイベントは、場所とそこで実施されるさまざまな企画を紐づけることで構成される(図1)。全国大会の場合、企画には口頭発表やシンポジウムなどのプログラムに関するものから、託児所などのサービスまでが含まれる。企画は物理的制約を伴うものも多く、場所に応じて実施できる企画と実施できない企画がある。極端な例で言えば、水泳大会はプールなどの水がある場所でなければ開催できないというのがそれにあたる。これまでの大会では、地方や会場名という物理的な位置としての場所は変われど、例えば部屋の大きさや数、プロジェクトの有無など、場所が持つ設備や機能は概ね共通していた。したがって、場所は変わっても、実施する企画の種類や形態は基本的にこれまでの大会を踏襲できる状態であった。大会委員は、例年同様の場所の制約の下で、大会テーマや参加者のニーズにあった企画を考えるということが求められていた。

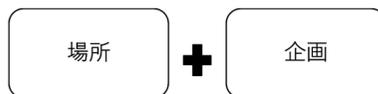


図1 イベントの構成要素

* 関西大学システム理工学部 (Faculty of Engineering Science, Kansai University)

** 千葉工業大学情報科学部 (Faculty of Information and Computer Science, Chiba Institute of Technology)